

第5回羽村市生涯学習審議会における委員からの意見

<p>【古本会長】 1 ページ 「人とつながる 豊かな心を育む」 → 標語してはつながりが今少し難しいです。 「人とつながり 豊かな心を育む 未来にひろがる はむらの学び」</p> <p>1 ページ 「人とつながる」説明部分 「希薄化がいられています。」 → 「希薄化が懸念されています。」</p> <p>2 ページ 「未来にひろがる」説明部分 「ヒトやモノが大きく羽ばたき」 → モノは羽ばたかないと思います。「その地域で生まれたヒトやモノが大きく成長し、」 ぐらいではないでしょうか。</p> <p>2 ページ 「はむらの学び」説明冒頭部分の修正案 「学びは、地域が舞台となります。学ぶから生まれた地域を思う気持ちが『ふるさと意識』を醸成し、先人たちが築いてきた『わがまち・羽村』を未来を生きる今の子どもたちへとつないでいきます。」</p>
<p>【川津副会長】 なし</p>
<p>【澤野委員】 2 ページの「未来にひろがる」の1行目の「DX」は、「デジタル・トランスフォーメーション」とし、何を指すのか注記が必要ではないかと思います。羽村市の市政レベルでもDXは進められているのでしょうか。企業の職場と公共施設、学校や家庭にはかなりギャップがあるように感じられますが。</p>
<p>【田口委員】 なし</p>
<p>【中川委員】 なし</p>
<p>【勝原委員】 標語（理念）を作るというミッションについて 他の自治体の生涯学習計画を見ると、だいたい似たような標語です。標語は目立つけれど、整合性が取れていれば良い、大事なのは内容（具体的施策）です。 その内容（施策）を抽象に示すのが標語（理念）だと思います。 内容（施策）と標語（理念）を検討して、標語（理念）を作るという観点から以下、意見・感想を述べます。</p> <p>H24 年度基本計画の体系は</p> <ol style="list-style-type: none">1) 標語（基本理念）：学習、連携/人、実践2) 基本的視点：社会、個人、連携 <p>を設定し、</p> <ol style="list-style-type: none">① 基本的視点⇒ライフステージ⇒施策の方向⇒施策② 学習基盤と推進体制の施策③ それらの中で重点の3本柱を指定 <p>H29 年後期基本計画の体系は （標語（基本理念）と基本的視点は同じ）</p> <ol style="list-style-type: none">3) 2つの方針：循環型学習、まちづくり <p>を追加設定し</p> <ol style="list-style-type: none">① 基本施策を組み替え、2つの方針の施策を追加して7つの基本施策⇒施策⇒事業

熊本市生涯学習推進計画（2020-2023年度）の体系は

基本理念：心豊かな暮らしの実現、学びと活動の循環、自主自立のまちづくり（人づくり、つながりづくり、地域づくり）

① 基本理念⇒基本施策⇒推進施策⇒施策の展開⇒取組例と検証指標

② 計画の推進体制

を設定。シンプルな形式です。

羽村市の基本計画（後期も）は、基本理念・基本的視点・2つの方針が並列し、施策に直結していない。複雑な印象を与えている。

キーワードの抽出について

3つの型に分けて集成すると良いと思った

- 1) 第1次計画の良い項目は継承する。
- 2) 第1次計画時には重視されなかった視点を入れる。
- 3) 今後の10年で重要になると想定される項目を入れる。

なお、

- 1) は事務局で原案を出す。
 - 2) には、「誰一人取り残さない」/「社会的包摂」、「多様性」、「循環型」、「自己肯定感」、「人生100年時代」、「国際的」、「SDGs」、「時代の変化に対応して」、「コミュニティ・スクール」、「開く」・・・などが挙がっています。
 - 3) には、時代変化として、デジタル技術、グローバル化、所得格差拡大、SDGs（環境、投資・・・など他分野の持続性）、地方創生、新型コロナ感染などが挙がっています。
- 2) と 3) を審議会委員が提案する。前回審議会で済んだことだが・・・。

標語（理念）提案1

「学んで実践」「未来にひろがる」「つながる人づくり」「羽村まちづくり」

第1次および後期基本計画にある「基本理念」「視点」「方針」をまとめ、未来志向を加えました。（学び⇔実践は双方向なので循環型生涯学習と言えば済むが、難解な言葉なので避けました）

標語（理念）提案2

「豊かな心を育む」、「人とつながる」、「はむらを創る」、「未来にひろがる」

「はむらの学び」は必要だが内容が弱い。地域社会を創るという広い概念にし、その中に入れる。「未来にひろがる」は新鮮、且つ未来志向で良い。

標語（理念）提案3

「豊かな心を育む、人とつながる、はむらを創る」

「創る」には未来志向が入っていると考える場合

標語（理念）提案4

「人づくり、つながりづくり、地域づくり」

どの自治体でも、いつでも使える。

青枠内のキーワードは理念の説明などに活用してほしい。廃棄はもったいない。

生涯学習基本計画は他の部課に関わる施策が多いが、生涯学習部として主体的に関わるべき施策に、

- ・外国人市民（羽村市で約2000人）への日本語学習
- ・ヤングケアラーへの教育機会援助

があります。「誰一人取り残さない」という理念に合致します。

外国人市民は、羽村に約 2000 人います。日本語学習によって、より高度な仕事ができ、良質な労働力となり、日本好きになってもらえます。将来は日本社会への文化的影響も期待できます。国際交流協会で、日本語学習、英語学習、他国文化交流などを行う生涯学習の方法もあります。ヤングケアラーは、親や祖父母の介護/看病のため学校に行けない若者で、他の自治体で取り組まれ始めました。羽村市で現在何人いるか不明です。ご検討ください。

既に社会問題になっている子どもの貧困は教育委員会の所掌に入るので既に取り組まれていると思います。

所得格差はこれからもっと大きくなり、貧困や学歴格差も広がっていくでしょう。その時、所得再分配政策と共に教育の機会均等政策が、格差固定化を是正し、安心安全な（社会的包摂）社会の実現に不可欠の仕組みとなるので、生涯学習/教育政策を強力に進めてください。

DX について

デジタル庁発足によって、やがて全国の自治体組織に DX への移行が迫られるでしょう。市と市民の情報のやり取りが双方向に変わり、顔の見える市-市民の関係ができるでしょう。また、情報の伝達がスムーズになるので、行政が計画に従うのみならず、変化に対応できるようになると期待できます。ICT や業務自動化・相談などのロボットの訓練が市職員に必要で、市民・民間商工業者にも教育を広げる必要があります。特に、過渡期にシニア層が取り残されないような教育活動が不可欠です。

商工業者の生涯学習について

マーケティングや技術進歩なくして事業・店舗の繁栄はない。変化の激しいこの時期には需要の変化を捉え、技術進歩を取り入れていく必要があります。とりわけ、小さい事業所・店舗において調査能力は限られているので、商工会と協働して学習機会を増やし、質を向上させる必要があります。

多様性について

現状の価値観等が多様化していることに対応するだけでなく、多様性の価値を求めていく必要があります。組織や集団が多様であれば、多くの意見や価値観、視点、技能技術が得られます。男女共同参画、ノーマライゼーション、外国人起用、社外/部外者登用、異質な識者参加などで積極的に多様な自治体になっていけば繁栄します。

集団心理で集団が 1 つの価値観、規範、常識になりやすいのは、集団への同調という人間の本性があるからです。それが心地よいのです。この欠点を補うのが、多様性であり、「豊かな心を育む」「人とつながる」基礎となり、「はむらを創る」こととなります。多様性を求めるのは、生涯学習の方法として重要。

はむらの学びについて

他を知り、自らを知れば“百戦危うからず”です。羽村学が市民の常識になることは必要です。まず、羽村学を充実させ、させながら広報に載せ、文化に昇華させると良い。羽村市の産業連関、土地所有/空き家情報、人口/人口移動の変遷、樹木や昆虫の生育実態、・・・など知らないことが多い。周辺の自治体のことも知って初めて羽村市の特徴が分かります。

「ふるさと」という言葉より「わが町」という言葉が良いのではないかと。使うとしても並列で使うのが良い。羽村市をふるさとと感じる昔からの住民（旧住民）は 1 万人いるだろうか、残りの 4 万人は他から移り住んできた新住民です。新旧住民が互いに習慣・ルールを尊重し合い融合して新しい羽村市が発展します。それが「わが町」意識です。

「開く/ひらく」について

重要な理念です。Open mind、開かれた家庭、開かれた学校、開かれた町内、開かれた団体、開かれた羽村市など繁栄の基礎となる理念です。

「学びは、地域での活動が舞台となります。」は狭量、訂正するが良い。学びは他所での多様な活動にも役立ちます。他所にも貢献し、他所の人々も羽村市に来て活動してくれます。楽市楽座は外から人が来るようにする仕掛けです。同時に多所に出かけやすければ他所の役に立ち、共存共栄となります。

“井の中の蛙”とならないような気風が人々、特に子どもらを成長させ、大きな人物に育てるのではないのでしょうか。

【葛尾委員】

○2 ページ 目指す生涯学習の姿「未来にひろがる」・・・「ICT の活用が拡大し、DX による劇的な変化」

○3 ページ 基本方針 2・・・「Society5.0 の到来」「高度な ICT 技術の活用」「ハイブリッド・ラーニング」「GIGA スクール構想」

○3 ページ 基本方針 3・・・「デジタルディバイドの解消」

上記 3 カ所について、専門用語・横文字が多く、一般の人には理解しにくいのではないのでしょうか。私にも理解できない。わかりやすい表現ができないものか。欄外に注釈で用語説明を付ける等必要があるのでは。

【山田委員】

資料を拝見しました。

皆さんが先日の会で話していた思いを上手くまとめてあると感じます。

無理やり何かの意見をと考えると、具体的な事は何も思いつかないですが、少し伝わりにくい印象があるかなあという気がします。

今はスローガン、方針、理念といった考えなのでこの先の話なのかとも思いますが、大元の「人とつながる・・・」は良いのですが、その内容となった時に具体的なもの、どういう活動を通して人と人をつなげ、豊かな心を育み、未来を広げていくのか。

そういう説明があると受け取りやすいのかと少しだけ思いました。

【橋本委員】

ずっと考えてみたけれど、何も名案が思い浮かばない。立場上思いつくことは、乳幼児期の人格形成の時期が人生で最も大切であるだろうということ。親から大切にされ、個性を伸ばし、保育園や幼稚園で友達と群れ遊びながら伸び伸びと育てていく。ばらばらの環境で育ててきた個性豊かな子どもたちが、一斉教育へ移行する時のつまづきをなくしたい。学校教育は子どもの気持ちにどれだけ寄り添えているか、親へのアプローチはできているか、「一人も取り残さない義務教育」が受けられているか。不登校やいじめの原因となるものは何かを考え丁寧に取除いてほしいと願う。

【高松委員】

なし

【河野委員】

学習でなく健康がテーマになるかも知れませんが、最近は新型コロナ関連に限らずオンライン学習等で PC 画面を見ながら学ぶ状況が増えているようで、近眼の進行や走力劣化に影響するのではと思われる。以前、神明台地区で子どもの散策で向山（草花丘陵）を周って、丘陵・羽村神社から羽村一面を眺めるなどしていた。私も交通安全協委員として付き添っていたが、良い行事だと感じた。市一括としては人数の関連で難しいが、地区単位で検討してみてもと思う。昔の田舎では、遠くを眺める、学校まで数 km 歩く、黒板の字を離れた位置から見るのが普通だった。

【吉岡委員】

なし

【新谷委員】

なし

【成瀬委員】

《生涯の様々な時期に行われる学習活動などについて 考え》

乳幼児期＝愛されること

少年期＝子供会、家庭や学校以外の様々な場で学習する機会・仲間づくり・思いやる心

青年期＝学校を卒業し、社会に出る。夢に向かって自分の人生を歩む。仕事に関わる学習をする。個人の興味関心に基づいた学習が行われる。一人前の人間として独立。掘り起こす学習機会。

壮年期＝現実的な将来の設計に向き合い、人生の頂点を目指す。家庭人、職業人、地域住民として、責任を担う。スポーツ・芸術文化・社会参加活動。職業能力の向上。退職準備に取りかかる。多様な学習機会の提供に努めていく。

高齢期＝健康づくり。人生の学びを次世代に伝える。余暇時間が多くなっている。生きがいづくりのため。学習機会の拡充。今までの豊かな経験・技術を生かし地域活動へ参加。若々しさ。

《生涯学習社会について 考え》

◎豊かな人生を送ることができる。活力ある社会である。人間関係を築いていく。心の豊かさ・生きがいを感じるには。

「だれでも」(ハンディキャップある方・年齢・性別・国籍・学歴・学習歴・職業を問わず)

「いつでも」(時期・曜日・時間帯問わず)

「どこでも」(ゆとりぎ・居住地域周辺・職場周辺など)

「どんなことでも」(教養・スポーツ・余暇活動・市民活動・職業能力訓練・趣味など)

「いかなる形でも」(講座・研修・イベント・インターネット・遠隔授業など)

このように学ぶことができる環境があり、成果を発揮または生かすことができることが生涯学習の社会である。

☆しかしながら、このようにできることは、「特別な人」「特別な時に行う」「特別なことである」と思う人が多いと言われている。多くの方々に参加できるよう、促すことが必要だ。

《今後の課題について》

社会の急激な変化に対応しなければならない。その上コロナの感染により一気に教育の仕方やすべての人々の生活が変化している。

生涯学習の中で自ら学習する意欲と能力を培い、主体的に養っていくことを持ち続けることが大切。

国際化(キルギス共和国と交流をはじめ)、情報化、高齢化(ゆとりぎや地域コミュニティ参加や健康づくりなど)、環境問題、消費者問題、エネルギー問題(産業祭などで)、地域の連帯、ふるさと意識など学習し、考えていくことが大事である。

☆生涯学習は自発性に基づいて行われ、一人ひとりが資質を向上させる活動に思う。地域社会に生かせるように。子どもたちは大人が生き生きと社会参加活動をしている姿を見れば自然と高まっていくはずと思う。自由に学習機会を選択できるように情報を発信し参加しやすいように考えていくことが必要である。

スローガンについて適していると思います。

【中根委員】

4つのストーリーのタイトルについては良いと思います。内容も良いと思いますが、市の施設を活用したということがありませんが、市内の公共施設の稼働率を上げるためにも既存施設を活用した生涯学習も少し加えても良いのではと思いました。

【鈴木委員】

豊かな心を育むには、生まれる前からの親への教育と、生まれてからの大人の関わりがとても大切だと思います。「子どもの権利条約」がありますが、このことに大人が目を向ける必要性を感じます。子どもが元気に笑っているのか？ 周りから大切にされているのか？ 暴力のない中で育っているのか？ 貧困問題など。大人が、これらのことに何ができるか考えていくことが大事だと思います。一人ひとりに愛情を持って関わっていく時、自己肯定感も高まり、他者への思いやりを持った心豊かな子どもたちが育っていくのだと感じています。やがて、その子たちが大人になることが楽しみです。

【田島委員】

事務局でまとめた「人とつながる はむらの学び」「豊かな心を育む はむらの学び」「未来にひろがる はむらの学び」を柱とする考えは賛成です。シンプルかつ的確で非常に良いと思います。

私はこの考えを読み「人とつながる」「豊かな心を育む」「未来にひろがる」という3本の柱の中心に共通する「はむらの学び」がありそれぞれを実現するために活動を展開するようなイメージと感じました。ところが【資料2】を見ると、4つが並列で存在しているため違和感があります。

記載だけの話かもしれませんが、みなさんの意識を共有するためにも事務局の考えをちゃんと説明してほしい。

【中条委員】

学校や地域等におけるボランティア等の枠組みは人とのつながりや地域との関わりの意味合いから非常に重要な部分ですが、古くからの慣習に縛られて枠にはめていくと価値観や生活習慣の多様化に合わず、取り残される人が出る気がします。

新しい地域コミュニティ・地域貢献の方法、学校との関わり方等、個々の環境に柔軟に対応できる参画方法の構築というのにも必要だと思います。

【野口委員】

とても良い案だと思います。

「人とつながる」「はむらの学び」の二つの要素について、地域のつながりや地域への愛着が希薄になっていることに、羽村市が対策を講じる必要があるということは理解していますし、「羽村市が目指す生涯学習の姿」としてはこの二つは外すことのできない要素であると思います。しかし、地縁を形成したい人やふるさと意識を醸成したい市民がどれほどいるのかという点に対して疑問を覚えます。この二つの要素が、人と繋がることを必要としていない人や、羽村の伝統を学びたくない人にとってマイナスに働くことはないか、慎重に考え配慮すべきだと考えます。

【堀委員】

なし